

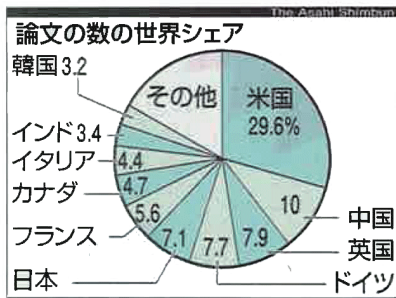
日本の研究水準落ちた？米アナリストに聞く

論文数横ばいでも質は向上

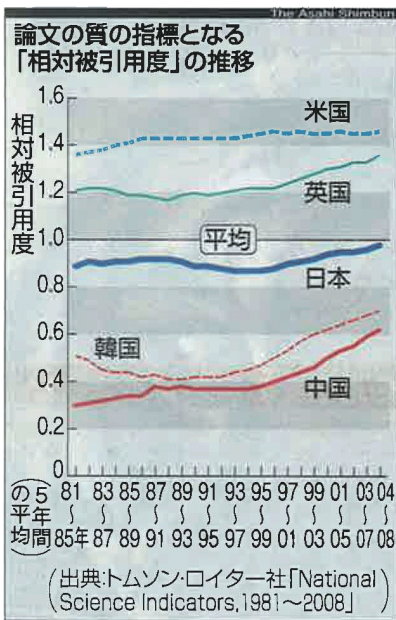
日本の研究水準は国際的にみて落ちているのか？ 今年3月に出された科学技術政策研究所の研究者定意識調査は、日本の研究水準の低下への危機感が高まっていることを報告した。日本の研究論文の最新状況について、来日したトムソン・ロイター社(本社・ニューヨーク)の専門アナリスト、デイビッド・ペンドルベリー氏に聞いた。(行方史郎)



——日本人の研究水準が落ちていくとの議論があるが、日本の大学や研究機関が出した論文のデータからは、そうした傾向は認められない。1970年代以降伸び続け



た論文の量が、00年ごろから年間7万〜8万本で横ばい状態にあり、論文のシェアも00年代前半には10%近くまで伸びたが、今は7%程度。これが日本の危機感の理由だろうが、シェアの低下は米国をはじめ先進諸国に共通している。



——その原因は？
中国の驚異的な伸びの影響が大きい。06年に日本やドイツ、英国を抜いて米国に次いで2位となり、今や10%。40%近くあった米国のシェアも30%を切った。

——質の面では？
一本の論文が他の論文に引用された回数を国ごとに相対化した「相対被引用度」で質をみると、04年から08年の5年間で、世界平均を1として日本は0・98、95年から99

トムソン・ロイター 世界の約1万1千の学術誌に掲載された論文をデータベース化して提供し、3800以上の研究機関が利用している。学術誌の

質の指標となる「インパクトファクター」の発案や毎年のノーベル賞受賞者の予測でも知られる。ペンドルベリー氏はノーベル賞予測を一人で行っている。

年の5年間が0・87なので、順調に伸びている。中国の伸びも著しいが0・6程度だ。——とはいっても日本は世界平均より低い。引用数が高い論文がどれほど生まれているかに関係しているとみられる。99〜09年の11年間で、分野ごとに引用数がトップ1%に入った論文が占める割合をみると、日本は0・71%。中国(0・65%)よりは高いものの、米国(1・85%)や英国(1・65%)、ドイツ(1・36%)に比べて低い。それでも日本から出された引用数トップ1%の論文は99〜08年の間で5503本に上り、世界全体の6%を占め、決して少なくない。中国のシェアが4・3%なのでまだ差がある。91年時点の日本の世界シェアは4・8%なので良くなってきている。